

古事記を読む会 33号 (2017,10,1)



この所、にわかには涼しくなり、虫の音もすみわたるよい季節を迎えています。

さて、今回は、藤田富士夫先生から、『三輪山の祭祀をめぐる』お話いただきました。

古事記だけでなく「日本書紀」に書かれている事も紹介され、考古学的な知見から、四世紀後半以降五世紀くらいに、鏡と玉と剣をセットに国家祭祀が行われたと考えられることを示されました。藤田先生からいただいた酢橘の味は如何でしたか？

今回は、お話を聞いて思った事などを思い出して、話合いたいと思います。

まず、オホナムチ、大物主などの名を持つ神が、古事記の各場面でどのように語らえているか？古事記の文を拾いながら、確認します。(T氏リード)

また、先生のお話を聞いて、出雲と大和について少し気になる事を出し合ってみます。

(K氏リード)

以下の文は、K氏が藤田先生のお話を聞いた直後に書かれたものです。

「従来からの自分の感覚では、国造りを終えた出雲族に対し、天孫族が強引に国譲り迫り、征服して王朝を造り上げたというものでした。しかし、その征服したはずの出雲族の神が王朝のシンボルでもある三輪山に君臨し、代々の大王はそれに畏敬の念（もしくは恐れ）を抱いています。崇神天皇・垂仁天皇も然りです。大和朝廷の歴史書である『日本書紀』ではかなり無視されている出雲神話が『古事記』では、重要視されています。出雲族と天孫族とのかかわりはいかがなものであったのでしょうか？」

謎の大和と出雲の関係について、話し合ってみましょう。

今後の予定

11月5日、12月3日、年内はあと2回です。

本日、これまでの資料を少し整理して見ます。今後の進むべき方向が見えることを期待しています。

また、会員の皆様から、今後してみたいことなど、ご意見をいただければ幸いです。

※ 先日、朝日町で行われた翡翠フォーラムに参加しました、近藤さんは、三浦祐之先生のサインをゲットされました。参考までに三浦先生の資料を配布します。